



明治の合併

～神足村・古市村の合併～

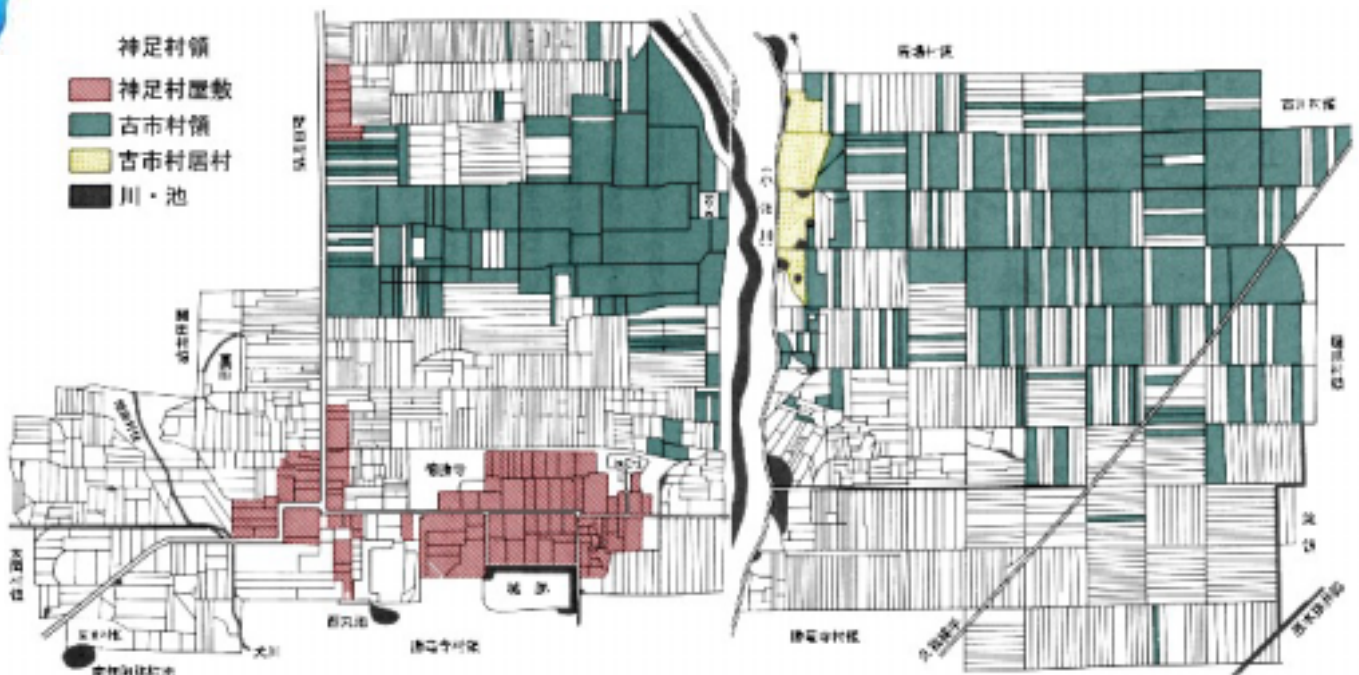
近年、市町村合併に関するニュースをよく耳にします。長岡京市域では過去に2回、大合併を経験しましたが、それよりも前、明治の初めにも村の合併があったことは御存知ですか？

展示期間:8月19日(火)～9月30日(火)

合併の歴史

今回の全国的な市町村合併は俗に「平成の大合併」といわれていますが、このような大合併の動きは明治22(1889)年の市制町村制施行の際の「明治の大合併」、昭和20～30年代に進められた「昭和の大合併」についてこれで3度目です。長岡京市域でも明治22年に14の村々が「新神足村」「海印寺村」「乙訓村」の3カ村に、さらに昭和24(1949)年にはこれら3カ村が合併して「長岡町」となるといったように、過去2回にわたって大合併がありました。

江戸時代の神足村と古市村の関係



★ 神足村・古市村入り組みのようす(本文編図5より)

神足村と古市村は中世以来それぞれ独立した集落として宮座や檀那寺も独自に営んできましたが、その村境は上の図にも示されるように複雑に入り組んでいました。江戸時代の初めには古市村は神足村に含まれていました。

京都府下の町村合併

江戸時代の村々は明治以降も新しい秩序のもと存在しつづけてきましたが、学校費・地租改正費用など新たな経費が村に負担となって重くのしかかりました。そこで政府は明治5、6年と相次いで小さな町村の分合を強力に推し進める法令を出し、その結果、全国でさかんに町村分合が行われました。

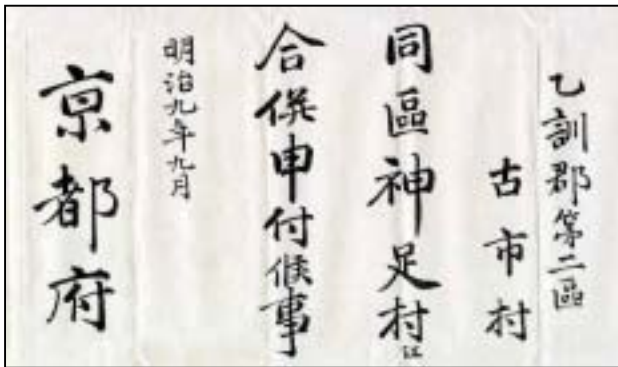
乙訓地域でも明治7(1874)年から9年にかけて神足村も含め、合計6件の合併が行われました。

★ 明治初めに乙訓地域で行われた町村合併

明治元年	明治8年	明治9年	現在
西土川村 白井村	→ 森本村	→	向日市 森本町
中久世村 下久世村	→ 久世村	→	京都市 南区
灰方村 長峯村 阪本村 灰谷村	→ 石作村	→	京都市 西京区
神足村 古市村	→ 神足村	→	長岡京市 神足ほか
長野新田 岡村新田	→ 長野新田	→	京都市 西京区
久我村	→	→	

『京都府地誌』『京都府の地名』『京都市の地名』より

神足村と古市村の合併



★ 合併達書(明治9年 古市区有文書)

明治8年12月、神足村・古市村は京都府に合併願書を提出しました。合併の件は地租改正を機に話し合わせ、その理由として両村の土地が入り組んで境界がはっきりしないこと、元は一村であったこと、それぞれで村を運営しているのは諸経費が多くかかり「難渋」であることなどを挙げています。この願いは翌年9月には認められ、両村は神足村となりました。

合併後の共有財産

神足村には古くから柴木などを採取する、共有の山がありました。両村の合併によってこれらの取り扱いはどうなったのでしょうか？

明治11年、古市村にも神足村同様に柴木などを採取することを認めるかわりに諸経費を払うことが取り決められ、両村の間で約定書が取りかわされました。

★ 古市区に残る共有山に関する約定書(明治11年 増田幸子家文書)



< 展示史料 >

- 神足村・古市村合併願書写(明治8年)
- 神足村・古市村合併達書(明治9年)
- 神足村・古市村合併請書写(明治9年)

< 参考文献 >

- 資料編三(※:216.2)
- 本文編二(※:216.2)
- 京都府市町村合併史(※:216.2) ほか